

## 出羽 桃子さんのスタディツアー参加感想

### 「実り多きスタディツアー」

7月18日から25日にかけてのモンゴルスタディツアーは、私にとって文字通り意味深いスタディーの連続でした。地平線から昇る太陽を見て敬虔な気持ちになったり、馬や駱駝に乗ったり、ゲルに泊まったり……、たくさんの貴重な初体験があり、それだけでも十分なスタディーでした。その上、意識の面で大きな揺さぶりをかけられたことが、さらなるスタディーでした。拙文をお届けすることで、感謝の言葉に代えさせていただきます。

まず第一に、日本救援衣料センターの貴重な活動の一端を知り、わずかではありますがそのお手伝いをさせていただくことによって、いろんなことを考えさせられました。今までは、ユニセフの活動に若干の募金をしたり、災害が起こるたびに設置される募金運動にわずかばかりの寄付金を送ったりするだけでしたが、それらがどんな道筋をたどり、どんな方々に届き、果たして意味ある行為となっているのか否か、もどかしい思いをしてきました。今回の体験で、日本救援衣料センターの息の長い取り組みを知り、そういう貴重な営みに関わっておられる大勢の方々のご存在を知りました。このような取り組みが末永く続けられることを願わずにはおれません。帰ってすぐ、わずかですが衣料を倉庫宛に送りました。私ごときにできることはささやかなことではかありませんが、そんなことでも続けることが大切。それを活かしてくださる組織があり、それを喜んでくださる人がいることを信じて、これからも送りたいと思います。

第二に、モンゴルの自然と社会を身近に感じることができました。私にとってのモンゴルは、遠い遠い、地平線から太陽の昇る大地というきわめて漠然としたものでしたが、まさに百聞は一見に如かず、めざましい発展を遂げつつある首都ウランバートル、そこここに点在する歴史の跡、日本のそれとは桁違いの自然遺産。観光シーズンの数ヶ月を除くと、おそらく怖い牙をむくであろう大自然、それらにかこまれて生きる人々の生活……多少は事前学習をしていたのですが、それとは次元の異なるものを直に感じることができました。願うらくは何度か訪れることにより、モンゴルの方々との想いを共有できたらと思います。

第三に、発展とか近代化とかについて考え込んでしまいました。あの大地と天空の広がり、悠然とした時間の流れ、それらに抱かれてゆったりと生きる人々や動物たちののびやかさ。毎日毎日あくせく暮らしている自分自身を哀れに感じるほどでした。しかし、日本で、エアコンとか車とかパソコンとか、必需品でもない文明の機器を必需品であるかのように使い、大気を汚染し、地球温暖化や地球破壊に加勢しながらそれを嘆き、残された自然、手つかずの自然に癒しを求めようとする自分自身について考え込んでしまいます。これからも考え続けなければならない重い宿題をもらったという心境です。

これからも、モンゴル岩塩のまるやかな辛さは、私の下手な料理をとびきり上等にしてくれるでしょう。鬱々とした現実に翻弄されそうなきは、あの駱駝たちの超然とした姿を思い出すことでしょう。8日間のツアーを通して、大きな感動とともに、いろいろなことを考えるきっかけを与えてくれたモンゴルに感謝致し、お世話になった多くの方々にも深く感謝致します。また、日本救援衣料センターのますますのご発展を心よりお祈りいたします。ありがとうございました。